

index

2025 (第34号)

- 医師連盟委員長挨拶
- 令和7年新年祝賀会
- 議員対談 衆議院議員 松本剛明氏
- 郡市医師連盟だより (芦屋市医師連盟)

# 兵庫県医師連盟ニュース



発行所 兵庫県医師連盟  
 〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11  
 Tel 078-265-2328  
<http://www.hyogo-ishirenmei.jp>  
 編集責任者 八田 昌樹

## 医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟  
 委員長 八田 昌樹

現在、石破政権の支持率は下がっており、自民党が3割、自民党以外が3割、無党派層が4割と非常に厳しい状況になっています。この

2025年は阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え、1月17日には厳かに追悼行事が行われました。生き残った我々は、来るべき南海トラフ地震に備えて、被害を最小限にするよう準備しておくことが肝要です。

2025年7月には参議院選挙が施行されます。日本医師連盟は組織内候補として金港敏氏を推薦決定しています。兵庫県医師連盟も同様に金港敏氏を推薦決定しました。最近の選挙をみると集会や街頭演説に加えてSNSの配信が大きな役割を担うようになってきました。金港氏の後援活動におきましてもLINE、facebook等をはじめとするSNSコンテンツの登録・拡散をお願い致します。

もちろん、今まで通り地道な支援は必要であり、郡市医師連盟と連携して会員の組織固めを行ってきたいと思えます。

ままでは、比例で10人を確保できないこともあるかもしれせん。最低でも全体で8位、社会保障系で1位を目指して頑張ってくださいませ。

医療・介護・福祉の現場は極めて厳しい状況です。この状況を変えるためには組織内候補としての金港敏氏が、参議院選挙で得票を重ねて上位で当選することが重要です。

会員自身の1票と家族の1票が基盤ですが、さらに診療所の従業員の方々の投票が必要です。医療界全体を見る中で医師の組織内候補がしっかりと票を取ることが、医療・介護の全体を良くすることに繋がります。

選挙日は、あと半年に迫っています。サポーター名簿の獲得、LINE友だちの登録等引き続き後援会活動の協力をお願い申し上げます。

# 令和7年新年祝賀会



挨拶する八田昌樹県医会長

兵庫県医師会新年祝賀会が、令和7年1月9日(木)、神戸ポートピアホテル「偕楽の間」において開催されました。今年度は松本吉郎日本医師会会長、齋藤元彦兵庫県知事、橋本芳紀兵庫県歯科医師会会長、三宅圭一兵庫県薬剤師会会長、丸山美津子兵庫県看護協会会長、浜田知昭兵庫県議会議長、川島龍一兵庫県医師会名誉会長、空地頭一兵衛兵庫県医師会名誉会長、坂本泰三日本医師会常任理事、自見はなこ自由民主党参議院議員、兵庫県選出の衆参国會議員、県議員、郡市区医師会会長、各医会会長、各委員会委員長等、218名の出席を賜りました。

平林弘久・瓦井博子常任理事の司会のもと、橋本寛副会長の開会の辞で新年祝賀会は始まりました。八田会長からは新年の挨拶の後、厳しかった2024年度診療報酬改定や物価、人件費の高騰、控除対象外消費税、医師偏在対策に対して日本医師会や郡市区医師会、関係団体と連携して取り組んでいくと言及されました。

来賓挨拶では松本日本医師会会長より、昨年末より拡大しているインフルエンザに対して病院や診療所の会員が夜間、休日を含めしっかりと対応されていることに謝意を述べられ、薬やキットの不足に関しては厚生労働省に強く改善の要望をしている、と話されました。また、物価人件費高騰による医療崩壊の危機に対しては、財政出動の必要性を強く訴えられました。

その後、齋藤兵庫県知事、浜田兵庫県議会議長、橋本兵庫県歯科医師会会長のご挨拶の後、滋賀県医師会訪問のため遅参された金港敏日本医師会副会長が到着され、大変厳しい状況に置かれている社会的共通資本である医療・介護・福祉を維持していくために、今夏の参議院選挙に日本医師連盟組織内候補として立ち上がった、との力強い挨拶をいただきました。

三宅兵庫県薬剤師会会長の乾杯のご発声で新年祝賀会が始まり、各テーブルやフロアにおいて有意義な意見交換の場が多く見受けられ、最後には岡林孝直副会長より新年祝賀会出席への感謝と閉会の辞をもってお開きとなりました。

医師連盟プロジェクト委員会  
 委員長 北垣 幸央

**兵庫県医師連盟ホームページ  
 随時更新中**

医師連盟の主張や意見の広場、郡市区医師連盟の活動などを掲載しています。

兵庫県医師連盟

<http://www.hyogo-ishirenmei.jp>



兵庫県医師会 八田昌樹会長



日本医師会 松本吉郎会長



兵庫県 齋藤元彦知事



兵庫県議会 浜田知昭議長



兵庫県歯科医師会 橋本芳紀会長



日本医師会 釜谷敏副会長



兵庫県薬剤師会 三宅圭一会長



県議会各派代表議員の方々



当日出席の国会議員の方々

# 伝える。届ける。

## 優れた医療・介護をすべての人へ、次世代へ。

### かまやち さとし わたしの思い

#### 「未来に」伝える。届ける。

国民皆保険制度による日本の優れた医療・介護体制を堅持します。  
小児科医の経験を活かし、子どもたちの笑顔を作ります。  
すべての人に明るい未来を目指します。

#### 「国民に」伝える。届ける。

感染症等の有事にも、平時の医療体制を提供します。  
予防できる病気を防ぐため、希望する人へのワクチン接種を推進します。  
すべての人が健やかに過ごせるよう、健康増進に努めます。

#### 「地域に」伝える。届ける。

医療・介護の従事者を確保し地域医療を充実させます。  
高齢化率の高い地域でも患者さんを支えます。  
災害に強い街づくりを推進します。

#### 「行政に」伝える。届ける。

地域保健・公衆衛生活動を充実させます。  
日本医師会が目指すかかりつけ医機能を推進します。  
地域の実情に応じた医療現場の声を行政に伝えます。

日本医師会 副会長

**かまやち さとし** 釜谷 敏

プロフィール

医師／医学博士／日本小児科学会／

日本小児科医会／日本小児神経学会 会員

趣味：阿波踊り（上州高崎ですすけ連 2001 年より）  
茶道

1953 年 7月5日 群馬県高崎市生まれ 巳年、かに座  
1972 年 東京教育大学附属 駒場高校（教諭）  
現）筑波大学附属駒場高校 卒業  
1978 年 日本医科大学医学部卒業  
1978 年 日本医科大学付属第一病院 小児科 入局  
1988 年 小泉小児科医院 院長  
2005 年 高崎市医師会 会長  
2011 年 群馬県医師会 参与  
2014 年 日本医師会 常任理事  
2020 年 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議構成員  
新型コロナウイルスアドバイザーボード構成員  
2023 年 新型インフルエンザ等対策推進会議委員  
2024 年 日本医師会 副会長

かまやち さとし

日本医師連盟 HP  
[公式 HP]

<https://www.dr-kamayachi.jp>



facebook

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61565554526871>



公式 HP・SNS

LINE 公式アカウント  
[ご招待 QR コード]



日本医師連盟

YouTube

<https://x.gd/jmakama>





宮下副委員長(以下宮下)

お忙しい中、急な対談の申し出に対応していただきありがとうございます。さて、前回2018年12月の対談では、議員になられた経歴、民主党から自民党へ移られた経緯について伺っておきます。今回は早速ですが総務大臣としての職務について教えていただけますか。

松本代議士(以下松本)

総務省の仕事は、地方の行財政を支える、消防、選挙、放送、郵便、情報通信、さらに行政評価、統計など非常に幅広く、役所という旧自治省、郵政省、総務庁の3つが一緒になりました。令和5年12月から令和6年10月1日まで総務大臣の間、私が最も力をつぎ込むことになったのが災害対応で、非常に大き

かったですね。災害の最前線にあたる自治体をサポートするというところで、県をまたいで消防に行ってもう場合は総務省が指示をする、という仕組みになっています。元日午後4時過ぎに発災(令和6年能登半島地震)して、すぐに全国の消防に「あなたのところは、今行けますか」と問い合わせをしました。元日の午後は日本人が一番ゆっくりにしている時間だと思うのですが、1時間以内にはほとんどすべてのみなさんが「対応します」と言ってくれたので、岐阜や長野など近いところから行ってももう十分に順々に指示を出しました。通信も担当していますので、携帯電話事業者のみなさんにも協力をお願いしました。例えばNTTさんが船を出

して沖合から電波を受け取る基地局を作ったのですけど、そこにauさんも一緒に乗って、といったこともありました。また、令和6年7、8月くらいから、東北の方ではかなり雨が降り、災害対応を行いました。災害では医療は極めて重要です。DMAT、JMATの先生方には本当に心強いご支援をいただいています。私は総務大臣として、DMATさんJMATさんチームすべてに衛星通信機をお渡ししました。これも総務省の仕事です。情報だけでなく、医療データも含めてさまざまな情報を取っていただくことができるので、大分違ってきたのではないかと思います。残念ながら避難所開設後すぐに感染のリスクを言われた時には、各全国都道府県にお願いして専門家を石川県庁に派遣してもらい、厚生労働省から感染症・衛生対策の専門家も派遣していただきました。そういう意味でも地域医療を担っていたらいいという地元医師会の先生方とは、平時も非常時も連携が重要だということも総務大臣としても改めて実感しました。災害情報がたくさん入ってくる中で、通信とうまく組み合わせることができたのは良かったなと思っております。

宮下 寸断された道路の修復は、総務省の仕事ですか。国土交通省でしょうか。

松本 主として国土交通省なの

ですが、国が100%お金を出す道路は国土交通省直轄です。県道や市道は、国が半分、あるいは災害だから2/3出すと

なっても、残り1/3は県や市が出さないといけない。その県や市が出すお金を用意するのが総務省ですね。石川県に500億円ほど復興基金ということ

で、いわば自由に使えるお金を渡しました。公的には家の前までの水道管は直せるのですが、家の中の水道管は普通は税金で直せないの、県に自由に使えるように渡したお金で補助金などにしてもらう。そういうこと

のためのお金があるのです。総務省はまさに関わらないものはないと言ってもいいくらい、すべて関わりがあるのです。



松本剛明 衆議院議員

宮下 それでは次に、マイナンバーカードと医療についてお伺いします。12月2日から保険証の新規発行がストップするということがありますが、私の医療機関でどれくらいの方がマイナンバー

カードを保険証代わりになっているか。だいたい3、4割くらいです。ただ11月に入ってから、その割合が少し増えてはきているのですが、この状況でマイナンバーカードにうまく移行できるのかな、という不安もあります。



宮下正人 兵庫県医師連盟プロジェクト委員会副委員長

松本 移行というのは何事もハードルを越えなければいけないという意味では、移行期間である今まさに医療機関の先生方には大変お世話をしていただく期間をいただく部分があると理解しています。医療においてもやはりデジタル、DXによって最終的には例えば医療事務の省略化など、各医療機関や診療所のチーム全体としてのご負担を減らしていくことや、医療そのものにおいてもデジタル連携を通して、より質の高い医療を提供

しやすいような環境を作っていくという意味でも、DXのメリットのご説明をしてその鍵になる1つがマイナンバーカードである、ということの理解をもう少し広めていかないといいと思います。その点については逆に、医療の専門家である先生方のお声もよく伺いながら、どんな説明をしていくことがよいかという風に思います。私もまた友人で大きな病院に勤務している勤務医でしたら、彼は循環器系の内科だったので、彼は昔と比べて今は手術というよりも薬がずいぶん有効なのが増えてきたんだけど、あえて言えば効果が高いというのは言葉を気をつけて使う必要があるけど、いわば激薬であり、間違っても使うと大変なことになる。個人の患者さんの医療データはすごく昔以上に保守義務があるという認識を踏まえ、そういう意味では同級生の松本君だったらデジタルに関わっているなら推進してもらいたいよね、という話をしておりました。そういう意味でも今のどんどん高度になっていく医療、薬も含めて、医療をうまく利用するためにデータが必要で、そのためには医療全体のDXにマイナンバー

カードが有効であると。ただそれにご協力いただくにあたっては、おっしゃったように実際の資格確認の機器であるとか通信環境であるとか含めてですね、やはり急がないといけないと思います。またマイナンバーも含めてデジタルを進めるときに、どうしてもデジタルが使いにくい方に対するデジタルデバイスという言葉がありますけども、そういう方のフォローというのなかなか丁寧にする必要があると思います。

北欧はご承知のとおり、社会保障が進んでいる中でもすごいデジタル化が進んでおりまして、日本でいうところのマイナンバーカードがあれば何でもオンラインででき、何でもできるような環境なのですが、やっぱりそういう行政をやっている方と意見交換するとデジタルをどうしても使えない人の対応は丁寧をやっています、とのこと。我々もマイナンバーカードについては、多くの人にメリットを理解いただいて、どんどん使ってもらうように努力をしますが、どうしても難しい方のサポートもしっかりやる、ということの両輪でいくことが大事かな。メリットの方もサポートする意欲も、ちょっと伝わりきっていない所がマイナンバーカードが若干苦戦をしているかなと思うのです。



左より 國部伸也 姫路市医師連盟委員長、松本剛明 衆議院議員、宮下正人 兵庫県医師連盟プロジェクト委員会副委員長

(三画より)

各方面で、地方自治体の窓口で何か手続きをしようと思うと、住所、名前を何回も書かないといけない手続きが結構あると思うのですが、マイナンバーカードを出す住所名前が全部入っている申請書類が出てきて確認だけすればいいとか、サインだけすればいいとかいうことをしています。利用する側も提供する市役所側も省力化になる。利用する側も書くものが減る、医療のDXも患者さんも先生方も両方にメリットをちゃんとお届けすることが大事で、さまざまな大変な煩雑な医療事務等が少しでも楽になることで医療を提供したいというみなさんにもメリットをお届けしたいと思えますし、患者さん側にはDXによるメリットがお届けできることを、順次ご理解とご説

明をしていかなければいけないと思います。医療情報、サイバーセキュリティをしっかりと守った上で、患者さんの情報の総合的なプラットフォームを最終的には国が責任もって作っていく必要があると思っています。

**宮下** すべて共通の電子カルテにして、全部データを共有化するということですね。

**松本** 標準という形で、使ってみたら便利だなと思う先生方が多くなると使ってもらえると思えますね。

**宮下** 2030年頃を目途に、電子カルテの標準化。2030年もすぐ近いですから、難しいと思いますが、

では最後に社会保障制度についてお伺いします。「診療報酬が0.88%上がった」とは言っていますが、実際にはマイナス改定だったと思います。物価も上がった今、今回の診療報酬の改定では対応は難しいです。従業員に対する賃上げもあります。今回ベースアップ評価料は追加しただけなのですが、材料費の高騰などもあり、医療者としては「診療報酬をさらに上げて欲しい」というのが本音です。

**松本** そうですね。ベースアップ評価料という仕組みは、先生方にも是非積極的に活用ご利用を

いただくようお願いしないといけないと思っています。あらゆるコストが上がってきている中で、私自身は、みなさんがご提供いただいている質の高い医療に対する価格としては、相当割安で提供いただいていると思います。コストが上がっていることを考えれば、医療に対しては適正な公的支出は必要だと思っています。一つは、社会保障という意味でも年金は現金支給なのですが、医療は現物支給です。ご提供いただく方々がいて、ご提供いただく道具や材料があって、初めてできることになります。やはりそこはよく見極めて、対応する必要があります。と思っています。

また、日本の場合国民皆保険で、かつ、これだけの提供を民間のみなさまに担っていたらいている国は、ほとんど例がないと思います。民間のみなさんが民間の良きである健全な競争意識を持って、質が高く、価格を抑えたものを提供していたらいいことではないでしょうか。あくまで診療報酬は公定価格でもありますし、公的支援について私は充実させるべきだということも、国政の議論でも申し上げています。

改めて医療界の先生方に感謝を申し上げます。世界的に高齢化が進んでいくことになって、国連の機関で世界の健康状態をお調べになったんですが、日本

は他の国に比べると健康状態が10歳くらい若いそうです。高齢者の基準を65歳からもう少し引き上げていいのではないかと話もあって。世界平均65歳の健康状態は、日本の76歳の平均値のようです。それは地域医療の貢献のおかげだと思います。

# 郡市医師連盟だより

【芦屋市医師連盟】

芦屋市は面積18.6平方キロメートル、人口9.5万人と阪神7市の中では最も小さく、芦屋市医師会の会員数もA会員で100を切るなど小さな規模です。その規模でも参加を呼びかけた行事に対する出席率は高いとは言えず、ごちんまりとした会場でよく見る顔ぶれの面々が集まる、そういった状況です。医師連盟としての活動も、多

見を出すとしたら、やはり数の論理が重要ですか。

**松本** もちろん最終的には、理論で決めていかなければならないと思っていますが、甲乙つけがたい話がある、それも財源が限られている、となったときには、やはり声の大きいことが一つのポイントになることは確かです。

**宮下** 本日は、お忙しい所、長時間にわたり、誠にありがとうございました。



芦屋市医師連盟委員長 安住 吉弘

数を動員して集まる会合などはなく、メールでの通達もリプライは少ないため、配布資料や昔ながらのファックスを利用したものになりがちです。

会員相互の個人的なお願いや情報交換に頼るところが多く、その家族やスタッフなどへの情報提供など地道な活動を通じて医師連盟の姿勢を拓けているのが現状です。

ICTを活用した活動も模索していますが、高齢な先生などにはハードルが高い部分もあり前進していません。参加しやすく、メリットを実感できる連盟活動を目指して模索中であり

## 参議院選挙(比例代表・全国区)投票方法

参議院議員選挙では、有権者1人が選挙区と比例区(全国区)の「2」票を投票します。

**1枚目 選挙区**  
各都道府県の候補者の名前を書いて投票

**2枚目 比例区(全国区)**  
全国どこからでも「候補者の名前」を書いて投票いただけます(※政党名でも可)

**UP!!**

名前を書かないと順位が上がらない仕組み

参議院比例区は「個人名」の記載が多い人から当選する仕組みです。

参議院比例区は衆議院比例区と異なり名簿の順位が固定されていません(開票時の個人名が多い順で順位が決まります)

